



時を超える夢

岡上淑子さん

取材・文 編集部

談話・作品

しかし、1996年に再発見されて以降、個展の開催や展覧会への出品、作品集の刊行、国内外の美術館への収蔵など、かつての作品が再び注目を集めています。

■ 岡上さんは現在85歳。生まれた地・高知で静かに暮らしていらつしやると聞いて、お目にかかる機会をいただきました。

待ち合わせの場所にいらしたのは、小柄で品のいいご婦人。お会いするまでに何度かお手紙とお電話でやりとりをしていたときの印象と違わない、優しい方でした。

あのすばらしい作品は、どうして生まれたのですか。そんな問いへの答えは、意外なものでした。

「できていくのよ」

何かを表現したいとか、メッセージを込めたというのではない。自然にできると、岡上さんは言うのです。

そう、いかにも意味ありげなものたちですが、実は考えなく気ままに切り取って、心のおもむくまま一枚の紙の

りません。若いお嬢さんです。独りでこつこつグラフ雑誌を切り抜きコラージュ（貼合せ）して夢そのものを描きました――。

1950年から6年ほどのあいだに

100点あまりのコラージュを創った岡上さんは、その後制作から離れ、長らく「幻の作家」となっていました。

と、作品の一つひとつにつけられたタイトルも詩的です。

このコラージュの作者は、岡上淑子さん。作品が生まれたのは、今から約60年前のことでした。当時25歳の彼女

を見出した美術評論家の瀧口修造（1903―1979）は、こんなふうで紹介しています。「岡上さんは画家ではあ

はじめてこの作品を目にすると、いつの時代の、どこの国のものなのか、戸惑ってしまうのではないのでしょうか。

ひと目で忘れたくない印象を残す、モノクロームの美しい世界。一見、何かの寓意や物語が秘められているかのようにも思えます。「魔法の時代」「沈黙の奇蹟」「陽気なリズム」「刻の干渉」